

歴史の謎解き通じ研究



作業員に交じり、発掘調査に参加した大学生（6日）。奥は釜蓋遺跡ガイダンス施設と北陸新幹線上越妙高駅

釜蓋遺跡

呼び掛けや受け入れは昨年度から同市教育委員会が行っている。主に首都圏や北陸新幹線沿線の大学にフィールドワークの参加を案内した。

昨年の10大学17人に続き、今年は4大学8人が申し込んだ。斐太遺跡群や環濠集落を卒業テーマとするため

前期作業は5日から始まった。市の作業員と一緒に、竹べらや移植機などを使い、地道に丁寧に土を掘った。大正天文学部歴史

大学生が発掘作業参加

考古学を専攻する学生が国史跡の釜蓋遺跡（上越市大和）の発掘調査に参加し、地域の歴史の謎解きを通して自身の研究課題を深めている。今月30日まで前、後期に分け、現在は3大学6人が参加している。

学科4年の梅澤あき乃さんは「弥生時代の高地集落を卒業テーマとしていて、斐太遺跡群も研究している。東京でも発掘調査に関わったことはあるが、ここは粘土質で掘りにくい。土器のかけらを注意深く見ていきたい」と話した。

立正天文学部史学科3年の久保昂平さんは「自分の研究テーマである神奈川県武力勢力と上杉氏は関係が深く、本家が上越なので参加した。発掘もそうだが、時間がある時に上杉家を調べたい」と意欲的に話した。

上越市は活動の報酬や片道の交通費を支給し、学生の研究を後押ししている。受け入れは3カ年計画で、来年度も続けられる。文化行政課埋蔵文化財センター係の溝内淳介さんは「上越を研究テーマに、大学時代に勉強していただけたらありがたい。戻っても、ここで一緒になった縁を大切にしてほしい」と活躍を期待していた。



発行所：(株)上越タイムス社

■本社
〒943-8585 上越市高土町2-4-6
TEL.025-525-6666 増 FAX.025-525-6603

☎ 0120-17-4243
<http://www.j-times.jp>
メール times@joetsu.ne.jp
(昭和55年12月18日 第3種郵便物認可)